

淡水魚類・ 大型水生甲殻類

【選定種解説】
淡水魚類・大
型水生甲殻類

淡水魚類・大型水生甲殻類

● 概 説 ●

◆市内の淡水魚類相・大型水生甲殻類相の特徴

新潟市は、信濃川、阿賀野川が形成した沖積平野の最下流部に位置しています。このため、市内の多くの河川は、流れの緩やかな下流域景観を示しており、コイやフナ類、タナゴ類、ニゴイなどのコイ科魚類を主体とする淡水魚が広く生息しています。また、サケやサクラマス、アユやイトヨなど、川と海を往来する回遊魚も多く、スズキやマハゼ、クロダイなどの汽水・海水魚も日本海から遡上してきます。

一方、新津丘陵と角田・弥彦山塊の平野側の小河川は、支・派川の源流部に当たり、山地溪流性の魚類も生息しています。また、角田・弥彦山塊の海側に面する小河川は、山地流のまま海に注ぐ細流で、アユやハゼ科魚類などの回遊魚を主体とする魚類が生息しています。

新潟平野には、かつて新潟平野が内湾だったころの名残の潟湖（ラグーン）や、河道の名残の河跡湖、砂丘の窪地に形成された砂丘湖などが各地に点在し、河川と連続した広大な一大水系を形成していました。鎧潟などのように干拓によって消失したところもありますが、今もなお大小の湖沼が残っています。

鳥屋野潟や福島潟などの潟湖は、かつては流出河川から海水の出入りがあり、純淡水魚のほか、ワカサギなどの回遊魚や、スズキ、クロダイなどの海水魚を交えて、多くの魚種が生息していました。しかし、現在では農地の乾田化のために堰が設けられ、海とのつながりが絶たれた結果、淡水魚を中心に二十数種しかみられません。砂丘湖の佐潟では、もともと生息魚種が少なかったと思われ、現在13種ほどが確認されているにすぎません。

これらの新潟市内の河川、湖沼からは、現在までに94種（亜種を含む）ほどの魚類が確認されています。このうち、一生を川や湖で過ごす純淡水魚は46種、川と海を往来する回遊魚は21種、沿岸海域から河口域に暮らす汽水・海水魚は27種にのぼります。純淡水魚の57%に当たる26種は、もともとこの水域には分布しない西日本や国外からの移入種で占められています。

エビ・カニ類などの大型水生甲殻類は、丘陵地の小河川に純淡水性のサワガニが生息し、平野部の河川にはモクズガニやクロベンケイガニ、アカテガニ、ミゾレヌマエビなど、幼生期を海洋で過ごす種類が分布しています。また、河口付近では、アリアケモドキやケフサイソガニなど、沿岸海域から汽水域に生息する種類もみられます。

◆調査・選定の概要

(淡水魚類)

本書では、新潟県の「レッドデータブックにいがた」に掲載された純淡水魚11種、回遊魚11種のうち、市内の河川・湖沼等に生息していると思われる14種と本市独自に8種を追加し、合計22種を希少種として選定しました。評価の結果、絶滅2種、絶滅危惧Ⅰ類1種、絶滅危惧Ⅱ類3種、準絶滅危惧15種、地域個体群1種となりました。選定理由別の種数は、絶滅2種、減少20種、環境悪化22種、捕獲1種、局限・孤立3種です（複数の理由が重複している場合もあります）。

(大型水生甲殻類)

本書では、新潟県の「レッドデータブックにいがた」に掲載された2種のうちのテナガエビ1種のほかに新潟市独自に6種を追加し、合計7種を希少種として選定しました。評価の結果、選定種のすべてを準絶滅危惧としました。選定理由別の種数は、減少7種、環境悪化7種、局限・孤立1種です（複数の理由が重複している場合もあります）。

◆減少の要因

(淡水魚類)

生息を脅かしている原因別の種数は、捕獲1種、水湿地の減少9種、河川の改変22種、農地の改変4種、移入種の侵入5種、農薬使用1種、水質汚濁3種です（複数の原因が重複している場合もあります）。

河川改修や農地の基盤整備事業などで水域の環境が変化し、繁殖場所や生息空間が減少、消失したことが最大の原因と考えられますが、ブラックバス類（オオクチバス・コクチバス）やブルーギルなどの魚食性の移入種による捕食や、タイリクバラタナゴなどの近縁な移入種との競合も大きな減少原因となっておりつつあります。

(大型水生甲殻類)

生息を脅かしている原因別の種数は、水湿地の減少3種、河川の改変7種、移入種の侵入4種、農薬使用4種です（複数の原因が重複している場合もあります）。

大型水生甲殻類の減少は、河川改修などによる水域環境の変化が直接的な原因となっており、また、殺虫剤や除草剤などの農薬類にも大きな影響を受けたものとみられます。

ゼニタナゴ

コイ目 コイ科

Acheilognathus typus (Bleeker)

カテゴリー	新潟市 絶滅	新潟県 絶滅	環境省 絶滅危惧 I A 類
-------	-----------	-----------	-------------------

【選定理由】

絶滅，環境悪化

【形態など】

体長は6cmほどで，口ひげがない。体色は青味を帯びた淡褐色で金属光沢があり，細かい鱗が網目状に見える。産卵期の雄は胸から腹にかけて赤色になる。

【分布の状況】

市内 かつて西蒲区にあった鎧淵から記録がある。江南区でも昭和30年代の生息情報があったが，現在ではまったく確認できない。

その他 新潟県，神奈川県以北の青森県を除く本州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，移入種の侵入

【特記事項】

市内産の標本や写真等の記録は残っていない。地方名：タナゴ



撮影：市域外
写真提供：松本 史郎

イバラトミヨ

トゲウオ目 トゲウオ科

Pungitius pungitius (Linnaeus)

カテゴリー	新潟市 絶滅	新潟県 絶滅危惧 I 類	環境省 地域個体群
-------	-----------	-----------------	--------------

【選定理由】

絶滅，環境悪化

【形態など】

体長は4～6cm。背びれに8～10本の短い棘がある。体側の胸部から尾柄部にかけて，8～25個の鱗が不連続に並ぶ。産卵期の雄の体は真っ黒になり，水草に球形の巣を作って卵を守る。

【分布の状況】

市内 かつて信濃川河口付近の沼垂に生息していた記録があるが，現在では生息可能な環境は存在しない。

その他 北海道から本州北部にかけて分布し，新潟県五泉市が分布南限となっている。



雌を巣に導く雄

撮影：市域外
写真提供：中村 幸弘

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変

【特記事項】

別名：キタノトミヨ

イトヨ日本海型

トゲウオ目 トゲウオ科

Gasterosteus sp. Japan Sea type

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 地域個体群
-------	---------------	---------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は5～8cm。背びれに3本，腹びれに1対の長い棘がある。体色は銀白色を帯びるが，産卵期の雄は，背側が青色，のどから腹にかけて赤色の婚姻色に変わる。雄は巣を作って卵や稚魚を保護する習性がある。



婚姻色の雄

撮影：市域内
写真提供：井上 信夫



遡上直後の体色

撮影：市域内
写真提供：松本 史郎

【分布の状況】

市内 ごく希に阿賀野川下流部などで確認される程度である。

その他 北海道および島根県以北の日本海側に分布し，県内各地では河川下流域や用水路で普通に見られたが，近年激減している。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，移入種の侵入，農薬使用

【選定種解説】
淡水魚類・大
水生甲殻類

スナヤツメ

ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科

Lethenteron reissneri (Dybowski)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は15cm程度で，口は吸盤状，胸びれや腹びれがなく，眼の後方にえら孔が7個並ぶ。アンモシーテス幼生には眼がなく，泥の中で有機物を食べて暮らす。カワヤツメに似るが，尾びれの先は明るい色である。成魚は餌をとらず，一生を淡水中で生活する。

【分布の状況】

市内 市内では，山麓の小河川で確認されている。

その他 九州，中部以北の本州，北海道に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変

【特記事項】

最近，北方種と南方種の2種に分けられることが明らかになったが，県内での生息状況は不明。



幼生



成魚

撮影：市域外
写真提供：井上 信夫

カワヤツメ

ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科

Lethenteron japonicum (von Martens)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，捕獲

【形態など】

体長は50cm程度。口は吸盤状で鋭い歯がある。胸びれや腹びれがなく，眼の後ろに7個のえら孔がー列に並ぶ。アンモシーテス幼生は，数年間川底の泥の中で過ごす。スナヤツメとよく似ているが，尾びれの先が黒い。成魚は海に下り，魚類を捕食する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，阿賀野川，信濃川に毎年遡上する。

その他 北海道および本州北部に分布する。

【減少等の原因】

捕獲，河川の改変

【特記事項】

地方名：ヤツメ



(上) 幼魚，(下) 幼生 撮影：市域外
写真提供：井上 信夫



成魚 撮影：市域内
写真提供：松本 史郎

ホトケドジョウ

コイ目 ドジョウ科

Lefua echigonia (Jordan et Richardson)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧ⅠB類
-------	---------------	---------------	----------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は5～7cmに成長し，ドジョウの仲間としては体型が太短く，頭部はやや平たい。体色は背側が黄色みを帯びた褐色，腹側は色が薄く，肝臓が赤く透けて見える。口のまわりには4対のひげがある。

【分布の状況】

市内 市内では，山麓の水田地帯の水路や細流で確認されている。

その他 青森県と中国地方西部を除く本州と，四国の一部に分布する。県内では，佐渡を除く山間・丘陵地帯の細流や湧水地帯に点々と分布する。



撮影：市域内
写真提供：松本 史郎

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変

【特記事項】

“echigonia”の種名は，本県長岡市付近が模式産地となっているため。

ウナギ

ウナギ目 ウナギ科

Anguilla japonica Temminck et Schlegel

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 情報不足
-------	--------------	--------------	-------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は40cm～1mに成長する。体色は背側が暗褐色，腹側が白色，体表のうろこは非常に小さく，粘液に覆われている。腹びれをもたず，背びれと尻びれは尾びれにつながる。小魚，エビ・カニ類，水生昆虫などを捕食する。川で数年から十年ほど暮らし，成熟すると産卵のために海へ下りる。



撮影：市域外 写真撮影：松本 史郎

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，佐潟では放流が行われており，毎年捕獲されている。

その他 全国の河川や湖沼に分布するが，日本海側の能登半島以北では少ない。県内では，大規模，中規模河川や湖沼に生息するが，大部分が放流されたものである。

【減少等の原因】

河川の改変

【特記事項】

現在，天然遡上はほとんどみられない。

【選定種解説】
淡水魚類・大
型水生甲殻類

ヤリタナゴ

コイ目 コイ科

Tanakia lanceolata (Temminck et Schlegel)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は6～10cmで，タナゴ類としては体高が低く，2本の口ひげをもつ。肩部にアカヒレタビラのような暗青色の斑紋はなく，背びれのひれ膜に紡錘形の暗色斑がある。産卵期の雄は，背びれと尻びれの先の赤色が目立つようになる。



雄の婚姻色

撮影：市域外
写真提供：井上 信夫

【分布の状況】

市内 市内では，支川や農業用水路で確認されている。

その他 北海道と九州南部を除く全国各地に分布する。県内では河川の中流域から下流域にかけて広く分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，移入種の侵入

【特記事項】

地方名：タナゴ

アカヒレタビラ

コイ目 コイ科

Acheilognathus tabira subsp.

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 絶滅危惧 I B類
-------	--------------	----------	------------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は5.5～8.5cm。体はヤリタナゴより細めで，体色は淡青紫色，肩部に円形の暗青色の斑点があり，体側に淡青色の細い縦条をもつ。産卵期の雄は，尻びれの先が赤くなる。タナゴ類は，カラスガイやイシガイなどの二枚貝に産卵する。

【分布の状況】

市内 市内では，支川や農業用水路で確認されている。

その他 本州の福島県から関東の太平洋側，秋田県から島根県の日本海側に分布する。県内の分布は平野部の河川，池沼に限られる。



雄の婚姻色

撮影：市域外
写真提供：井上 信夫

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，移入種の侵入

【特記事項】

体色などによって数亜種に分けられ，本県にはキタノアカヒレタビラが分布するといわれる。

マルタ

コイ目 コイ科

Tribolodon brandti (Dybowski)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 地域個体群
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は40～50cm。ウグイに似るが，産卵期には雌雄ともに体側から背面が暗青色になり，頬から腹側に沿って1本の赤色縦条が表れる。沿岸部や汽水域に生息し，小型の貝類やゴカイなどを食べて過ごし，3～5月に産卵のために河川を遡上する。

【分布の状況】

市内 市内では，信濃川や阿賀野川に産卵のために遡上する。

その他 国内では，北海道から富山県以北の日本海側，東京都以北の太平洋側に分布する。



撮影：市域内
写真提供：井上 信夫

【減少等の原因】

河川の改変

【特記事項】

別名：マルタウグイ

ウケクチウグイ

コイ目 コイ科

Tribolodon nakamurai Doi and Shinzawa

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧 I B類
-------	--------------	--------------	------------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

大型のウグイの仲間で，体長は60cmに達するものがある。頬が長く，下あごが突出しており，魚食性が強いとみられる。幼魚の段階から唇の先端が強く，他のウグイ類と区別される。

【分布の状況】

市内 市内では，信濃川，阿賀野川の他，湖沼でも確認されている。

その他 信濃川水系，阿賀野川水系および山形県の最上川に局限分布する。秋田県で1例の記録がある。

【減少等の原因】

河川の改変



(左側) 幼魚 (右側) 成魚

撮影：市域外
写真提供：井上 信夫

【特記事項】

地方名：ホーナガ

【選定種解説】
淡水魚類・大
型水生甲殻類

アカザ

ナマズ目 アカザ科

Liobagrus reini Hilgendorf

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧 II類
-------	--------------	--------------	-----------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は最大15cmほど，体色はオレンジ色がかった赤褐色である。口のまわりに4対のひげがある。ナマズに似ているが，脂びれがあり，尾びれは丸く大きい。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に豊栄，新津および潟東地区で確認記録がある。

その他 宮城県，秋田県以南の本州，四国，九州に広く分布し，県内では各地の河川中流域から上流域に生息する。

【減少等の原因】

河川の改変



撮影：市域外
写真提供：井上 信夫

【特記事項】

背びれと胸びれに毒をもった棘があり，刺されると痛むことから，ハチウオ・ハチヨ（蜂魚）と呼ばれることがある。

ワカサギ

サケ目 キュウリウオ科

Hypomesus nipponensis McAllister

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は6～15cm。体色は背側が褐色を帯びた青灰色で，腹側は銀白色である。サケの仲間に近縁で，背びれと尾びれの間に脂びれをもつ。

【分布の状況】

市内 かつて鳥屋野潟や福島潟が海とつながっていた頃は，湖内で漁獲された。現在でも，信濃川や阿賀野川では，数は少ないが，春の産卵期に遡上がみられる。

その他 北海道および本州中部以北に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変



撮影：市域内
写真提供：松本 史郎

【特記事項】

地方名：シロヨ

サクラマス（ヤマメ）

サケ目 サケ科

Oncorhynchus masou masou (Brevoort)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

河川生活中のヤマメは，体側に7～10個のパーマーク（楕円形の暗色斑紋）をもち，20cmほどにしか成長しない。幼魚の一部は，全身が銀白色に変わって海に下り，約1年間の海洋生活の後，大型のサクラマスとなって回帰する。

【分布の状況】

市内 市内では，ヤマメが阿賀野川支川で確認されており，サクラマスが信濃川，阿賀野川の下流域を通過して降海，遡河している。

その他 日本海側では九州以北，太平洋側では関東以北に分布する。



ヤマメ 撮影：市域外 写真提供：松本 史郎



サクラマス（雄の婚姻色）
撮影：市域外 写真提供：井上 信夫

【減少等の原因】

河川の改変

メダカ北日本集団

メダカ目 メダカ科

Oryzias latipes subsp.

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は2～4cm。小さな口が上向きにつき，頭の大きさのわりに眼が大きい。背びれは尻びれの前端よりかなり後方にある。雄の背びれには切込みがあり，尻びれは雌より大きい。

【分布の状況】

市内 市内では，小河川や農業用水路，池沼などで確認されている。

その他 本州以南に分布する。県内では，平野部から山間の池沼，小川に広く分布していたが，各地で減少している。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，移入種の侵入



雌 撮影：市域内 写真提供：松本 史郎



雄 撮影：市域外 写真提供：井上 信夫

【特記事項】

地方名：ウルメ，ウルメッコ

【選定種解説】
淡水魚類・大
型水生甲殻類

カマキリ

カサゴ目 カジカ科

Cottus kazika Jordan et Starks

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は15～25cmに成長。頭部が大きく，えらぶたの後縁に4本の棘がある。体色は褐色で，背側に4本の黒色横帯があり，じっとしていると水底の石と見分けが付きにくい。小魚や水生昆虫を捕食し，初冬の頃に産卵のために海に下りる。

【分布の状況】

市内 市内では，小河川の下流部で確認されており，信濃川，阿賀野川では春季に2cm前後に育った幼魚が遡上する。

その他 秋田県，茨城県以南に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変



撮影：市域内 写真提供：松本 史郎



撮影：市域外 写真提供：井上 信夫

【特記事項】

地方名：アイカケ，アユカケ

カジカ中卵型

カサゴ目 カジカ科

Cottus sp.

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧 I B類
-------	--------------	--------------	------------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は10～15cm。体色は暗褐色で，背部から体側にかけて2本の暗色横帯がある。河川上流部に住むカジカ（大卵型）と似るが，胸びれ条数が多く，13～17条。より下流側に住み，雪解け前に生まれた稚魚はすぐに海に下り，6月ごろに川を遡上する。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，信濃川および阿賀野川で，成魚や遡上中の幼魚が確認されている。

その他 本州日本海側と北海道南部の日本海側，四国，九州の河川に分布する。



撮影：市域外
写真撮影：井上 信夫

【減少等の原因】

河川の改変

【特記事項】

レッドデータブックにいがた（新潟県，2001）では，「ウツセミカジカ」として掲載されているもの。

カジカ大卵型

カサゴ目 カジカ科

Cottus pollux Günther

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

体長は15～17cm。体色は淡褐色から暗褐色まで変異に富む。中卵型とよく似ているが，胸びれ条数は12～14条と少ない。河川の中流域から上流域の礫底にすみ，一生を川で過ごす。水生昆虫を専門に食べている。

【分布の状況】

市内 市内の生息地は，丘陵の上流部に限られる。

その他 本州，四国，九州に分布する。県内では，河川の中流域から上流域に広く分布する。



撮影：市域内
写真提供：井上 信夫

【減少等の原因】

河川の改変

シロウオ

スズキ目 ハゼ科

Leucopsarion petersii Hilgendorf

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	--------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は4～6cm。体色はほとんど透明で，内臓が透けてみえる。第1背びれはなく，雄は雌よりも胸びれが大きい。また，雄の腹には小さな黒点が一列に並んでいる。4～5月頃に海から川へ遡上し，産卵後に雌雄とも死亡する。

【分布の状況】

市内 市内では，小河川の河口付近で確認されている。

その他 北海道南部から九州までの日本各地に分布する。県内では，沿岸各地の小河川で遡上が確認される。

【減少等の原因】

河川の改変，水質汚濁



撮影：市域外 写真提供：松本 史郎



撮影：市域外 写真提供：井上 信夫

【特記事項】

シラウオ（シラウオ科），琵琶湖固有のイサザ（ハゼ科）とは別種。地方名：イサザ

【選定種解説】
淡水魚類・大
型水生甲殻類

ミミズハゼ

スズキ目 ハゼ科

Luciogobius guttatus Gill

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は7～8cm。体は細長く，ほぼ円筒形で，頭はつぶれたように平たい。体色は黄褐色から赤褐色で，白色や黒色の斑点が体全体に散在している。一見ドジョウに似ているが，口ひげがない。

【分布の状況】

市内 市内では，小河川の河口付近で確認されている。

その他 日本全土に分布する。県内では，小・中規模河川の，石礫の多い河口付近を中心に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変，水質汚濁



撮影：市域外
写真提供：松本 史郎

ルリヨシノボリ

スズキ目 ハゼ科

Rhinogobius sp. CO (cobalt type)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

体長は10cmほどに成長する。体型はカジカに似ているが，腹びれは吸盤状になっている。県内には数種類のヨシノボリが生息するが，本種は頬にルリ色の斑点が，尾柄部に太い八の字型の黒斑があるのが特徴である。

【分布の状況】

市内 市内では，小河川で確認されている。

その他 本州，四国，九州に分布する。県内では，山地流のまま海に注ぐ小河川を中心に分布する。



撮影：市域内
写真提供：松本 史郎

【減少等の原因】

河川の改変，水質汚濁

【特記事項】

流れの速い山地流にすみ，佐渡島の外海府では落差10m以上の滝の上まで遡上している。

アブラハヤ

コイ目 コイ科

Phoxinus lagowskii steindachneri Sauvage

カテゴリー	新潟市 地域個体群	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

体長は13～15cm。体色は背側が褐色，腹側が黄色みを帯びた銀白色で，側面中央に多数の黒褐色の小斑点が連なって太い縦条に見える。産卵期の雌は，上あごの先端が突出する。

【分布の状況】

市内 市内では，限られた山麓の小河川で確認されている。

その他 日本海側の福井県以北，太平洋側の岡山県以北に分布する。県内では，山間・丘陵地帯の小河川や用水路などに普通にみられる。



撮影：市域外
写真撮影：松本 史郎

【減少等の原因】

河川の改変

【特記事項】

地方名：ドロツパヨ

ミゾレヌマエビ

十脚目 ヌマエビ科

Caridina leucosticta (Stimpson)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は3cmほど，体色は半透明～褐色で，大型の雌の体色は暗化する。額角上の棘は，眼の付け根より後方まで並んでおり，ヌカエビに見られる眼上の棘はない。河口近くに生息し，幼生は海中で生活する。



撮影：市域外
写真撮影：井上 信夫

【分布の状況】

市内 市内では，河川の下流部で確認されている。

その他 日本海側は新潟県以南，太平洋側は静岡県以南に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，移入種の侵入，農薬使用

【特記事項】

近年，信濃川下流部や鳥屋野潟では，国外産と見られるカワリヌマエビ属の一種が増加している。

ヌカエビ

十脚目 ヌマエビ科

Paratya compressa improvisa Kemp

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は3cmほどで，体色は褐色から緑褐色である。額角はやや短く，額角の上に並んでいる棘は数個から十数個と少なく，目の位置より後方には棘がない。また，額角根元の眼上に1本の棘がある。



撮影：市域外
写真提供：井上 信夫

【分布の状況】

市内 市内では，水草が繁った河川や池沼で確認されている。

その他 本州の東北地方から中部地方に分布する。県内では，河川の中流～下流部，山間の池沼まで広く分布している。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，移入種の侵入，農薬使用

テナガエビ

十脚目 テナガエビ科

Macrobrachium nipponense (De Haan)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 —
-------	--------------	--------------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は9～10cm。体色は透明感のある緑褐色である。雄の第二胸脚は長大で、体長の1～1.5倍に達する。動物食傾向の強い雑食性で、夜間、第二胸脚の先端のはさみを使って小魚などを捕らえる。

【分布の状況】

市内 市内では、河川や池沼で確認されている。

その他 北海道と沖縄県を除く各地に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変，移入種の侵入，農薬使用



雌

撮影：市域内
写真提供：松本 史郎

【特記事項】

信濃川では、一時、霞ヶ浦の稚エビが導入された。

地方名：ツノガラエビ

スジエビ

十脚目 テナガエビ科

Palaemon paucidens (De Haan)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

体長は3～5.5cm。体色は半透明で、頭胸部（頭と胸をおおった甲）に3～4本、腹部に7本の黒褐色の横じまがある。第一胸脚，第二胸脚には、小さなはさみをもつ。雑食性で、水草や水生小動物などを食べる。

【分布の状況】

市内 市内では、湖沼や河川で確認されている。

その他 北海道，本州，四国，九州，沖縄県に分布する。県内では、河川の下流域から中流域，池沼に生息する。



撮影：市域外
写真提供：井上 信夫

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，移入種の侵入，農薬使用

クロベンケイガニ

十脚目 イワガニ科

Chiromantes dehaani (H. Milne Edwards)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少、環境悪化

【形態など】

甲幅は4cm。体色は黒褐色で、甲の凹凸がアカテガニよりはっきりしている。はさみは紫色を帯びた白色で強大、外側の表面に白い粒がたくさんある。

【分布の状況】

市内 市内では、河川や農業用水路で確認されている。

その他 日本海側では男鹿半島以南、太平洋側では房総半島以南に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変

【特記事項】

かつては、市街地の水路や堀でも見られたという。



撮影：市域内
写真提供：井上 信夫

【選定種解説】
淡水魚類・大
型水生甲殻類

アカテガニ

十脚目 イワガニ科

Chiromantes haematocheir (De Haan)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少、環境悪化

【形態など】

甲幅は3.5cmほど。甲の上半分は黄色から鮮紅色、下半分は褐色だが、体色変異が多い。はさみは左右同大で、雄の成体では鮮紅色で大きく、上の方の爪は細く曲がっている。

【分布の状況】

市内 市内では、河川の河口付近で確認されているが、数は少ない。

その他 日本海側では秋田県以南、太平洋側では岩手県以南に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変



撮影：市域内
写真提供：井上 信夫

【特記事項】

かつては、クロベンケイガニとともに、市街地の水路や堀でも見られたという。

サワガニ

十脚目 サワガニ科

Geothelphusa dehaani (White)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

甲幅は2～3cm。体色は赤褐色のものが多いが，様々な変異がある。甲は中央付近に溝があるほかは，全体になめらかである。雌や若い個体では，左右のはさみはほぼ同大だが，雄はどちらか一方が大きくなる。卵は雌の腹部で保護され，稚ガニの姿で孵化する。本州唯一の純淡水性のカニで，海に下ることがない。



撮影：市域内
写真提供：井上 信夫

【分布の状況】

市内 市内では，丘陵地を流れる細流で確認されている。

その他 本州，四国，九州の山地流に広く分布する。

【減少等の原因】

河川の改変

参考文献（淡水魚類・大型水生甲殻類）

池田嘉平，1933. トゲウオの分布とその変異. 動物学雑誌, (534): 141-173.

皆川 博・沢栗勤夫，1934. 鎧淵産魚類目録.

本間義治，1983. 新潟県陸水動物図鑑. 新潟日報事業社.

鳥屋野潟生物調査会，1986. 鳥屋野潟の陸水生物学的調査報告書.

新潟市史編さん自然部会，1991. 新潟市史 資料編12 自然. 新潟市.

西川生物調査会，1995. 西川の陸水生物学的調査報告書.

中坊徹次，2000. 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会.

新潟県，2001. レッドデータブックにいがた. 新潟県環境生活部環境企画課.

環境省，2003. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物. 財団法人
自然環境研究センター.